

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり記者会見録
(平成30年9月29日(土) 11:45～11:55 於) 福島県浪江町)

1. 発言要旨

ふたばワールド2018 in なみえは、ふたばワールドの震災後6回目になります。

亡くなられた馬場町長が天にいて、一番喜んでいるのかなという思いをいたしております。

馬場町長、本当に7年半やったわけでありまして、浪江町の帰還困難区域を除く地域の避難指示を解除し、そして今の吉田町長に引き継ぐまで御尽力頂いたわけでありますので、今、天で本当に喜んでいるのは彼なのかな。実は私と同年なものですから、そういう思いをいたしております。

さて、震災後第6回を迎えて、今日もお天気に本当に恵まれて、台風が近づいている中にもかかわらず、双葉郡、双葉は一つなりというきずなを一層深めることができたのかな、こう思っております。そして双葉郡の復興、一日も早く、元の姿に戻れるように、私はこれからも全力を尽くしていきたい、このように考えております。

本当に皆様方の御協力でこのふたばワールドが開催されたこと、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日、既に非常に賑わっていますけれども、一方でまだまだ若い人たちも余り数としては少ないという状況で、これから帰還を進めていく中で、双葉郡のですね、現状、どのように受け止めていらっしゃるでしょうか。

(答) 福島県で避難を余儀なくされている方々が、まだ4万5,000人おります。そのうち県内の避難者数は約1万1,000強。残り3万3,000強は県外に避難をされております。そういう方々も含めて、県外からも今日はお集まりいただいて、親睦を、きずなを深めていることができると思っております。

そういう中でも、まだまだ道半ばという意見もありますけれども、特に浪江町は、なみえ創成小学校・中学校、校庭が全面人工芝になっているんです。行ってみてください。本当にすばらしい教育環境も整っている、たとえ長い年月がかかろうとも、必ず解除するという決意を安倍総理が示したわけでありますので、そういう意味でも、これからです。

若い方々がいかに帰ってくるかというのも大きな施策の一つです

けれども、まずは帰れる環境をつくっていききたい。そして、新しい方々もこの双葉郡内に移住してきていただきたい。ですから、そのためには住める環境を整えていく。買物もそうですし、教育環境もそうですし、当然、上下水道、インフラ整備もそうでありますが、そういうところを今、一生懸命やっているところです。

(問) 昨日ですね、東京電力が福島第一原発の汚染水の話を発表しまして、今までトリチウムというのものが残っていて混ざっていたんですけども、それ以外の放射性物質がですね、かなり高濃度で残っていると。直接担当ではないと思うんですけども、やっぱり廃炉というのは、復興の中で大きな位置を占めると思うんですけども、その中で、そうしたトリチウム以外のものがまた入ってくるとなると、やっぱり復興の妨げというか、ハードルになる可能性もあるわけで、その辺は大臣はどう受け止めていらっしゃるでしょうか。

(答) これは今、小委員会をつくって、科学的に分析する先生方、また風評被害等々ございますので、そういう意味の社会科学の学者等々、有識者を踏まえて、今検討しておりますので、10月1日に再度小委員会が開かれると思いますので、その結論を待って、汚染水の問題は考えていきたいと思っております。

(問) 東京電力がそのトリチウム以外にいろんな放射性物質があったということについては、大臣はどうですか。

(答) 完全に告示基準まで下がってはいなかったということでありますので、この部分はもう一回ALPS等々をかければトリチウム以外は告示基準未満になる見込みがございますので、それはきちんと東京電力の方でやっていただきたいというふうに思います。

(以 上)